

## 【社会科】教科提案

一人ひとりの学びの充実をめざして  
～ ひとり学習を全体学習の場面へ ～

### 1. 研究テーマ設定の理由

#### (1) 学校提案とかがわって

「学びをデザインする子どもたち」とは、子どもたち主体で、学びを深めていき、社会科のねらいに自ら近づいていけるような子どもたちのことである。これは、子どもまかせにするということではなく土台となる学級風土を作っていく中で育まれるものである。子どもたちが単元の中で学びをデザインすることもあるが、1時間の授業の中での気づきや子どもたちによる焦点化によって、デザインすることもある。そのためには、切実感のある教材づくりや課題設定が必要である。そこで、課題解決意識が高まり、ひとり学習が深まると同時に課題に向かう学級風土も高まっていく。やはり、どの場面においても教師のみとりと支援が重要である。社会科の学習内容は、主として現代社会の事象を取り上げるため、より具体的・直接的に現代社会とかがわり合う教科である。社会の仕組みを学習するとは、事象を単に知識として獲得するだけではなく、「ひと・もの・こと」という具体的な対象とかがわらせる中で認識され、それを追究していく過程を通して深化していくものであると考える。子どもたちは「もの」や「こと」を通して社会に生きる人の生き様に触れ、思いや願いを知り、社会の一員として成長していく。

学習を深化させるためには、まず子どもたちに自分の意思で主体的に学んでいこうとする意欲をもたせなければならない。また、学習の中で、一人ひとりの子どもによりそいながら、学習意欲やそれぞれの問題意識を高めていく指導姿勢が重要となる。

例えば、「子どもたちは、今どんなことに興味・関心をもち、何を追究しようとしているのか」とか「この子はこの問題をどうとらえ、どのように対象に向き合うだろうか」という視点が必要となってくる。子どもたちはその追究の過程を通じて、知識・理解を獲得し、深め、よりよく問題を解決する方法や能力を身につけていくのである。この場合において指導者は学習意欲を刺激し、方向づけ、学習活動を支援する存在でなければならない。子どもたちが自ら追究する中で獲得していった知識は、単に知識の増加にとどまらない。知識を獲得するための道筋や学び方をも体得するはずである。

#### (2) 社会科でめざす子ども像

社会科の究極的な目標は、社会生活を営んでいくために必要とされる「公的資質の基礎を養う」ことである。一人の人間として社会に対してどうかかわり、社会生活の中で自分はどう生きていくかを考え、社会の中で望ましい行動がとれるようにすることである。これは子どもたちに自分なりの「社会的なものの見方や考え方」を育てることと関連している。したがって社会科学習では、「社会的なものの見方や考え方」を身につけるようにするために、社会的事象に主体的にかかわらせていくことが大切である。

そこで、「社会科教育を通してめざすべき子ども像」を、次のように設定した。

A：事実を的確にとらえ、こだわりをもちながら学習をすすめていける子

B：社会的な事象への公正な判断力を持ち、未来への生き方につなげられる子

Aの「事実を的確にとらえ」とは、事実に基づいて見たり考えたりすることである。様々な社会的な事象から具体的な事実を的確に読み取ることが大切である。子どもがもっている社会的な事象に対する見方や考え方は多様であり、それは、既習内容の理解や生活体験の差異に由来する。「こだわりをもちながら学習をすすめる」とは、社会的な事象に対して疑問を抱くことも含め、自分なりに解釈（意味づけ）して考察することである。新たな社会

的事象と出合ったときに、他者の考えと自分の考えを比較したり、共感、深化したりする場を全体学習ととらえている。全体学習の中で、一人ひとりが友だちとかわりながら、自分の思いやこだわりをもって学習をすすめることにより、社会的事象をより総合的に把握したり考察したりすることができると思う。

Bの「社会的事象への公正な判断力をもち」とは、社会的事象を一面的に理解することとまらず、多角的・多面的にとらえることで、事象や課題を公正かつ総合的に判断する力を育てることである。社会的事象の多くは、立場を変えて見れば当然異なる見解が生じるものであり、多角的・多面的にとらえることで、より広い視野から考察・判断でき、子どもの中に個性的な見方や考え方が育っていく。また、自分の見方や考え方を表現し合い、友だちと比較・交流することによって、より公正かつ総合的なものの見方ができるようになる。「未来への生き方につなげられる子」とは、自分が生活している社会に深い関心や愛着をもち、それをもとに自分なりの未来の社会像や生き方を描き出すことである。社会的事象を自分の生活や自分自身とのかかわりの中で見たり考えたりすることで、自分の考えや夢をより広げ、自分なりの生き方や生活の改善につなげていくのである。そして、“自分にとっては”“自分ならば”など、自分を社会とのかかわりの中で見つめ直し、未来への生き方につなげていくことができる子に育ててほしいと願っている。

## 2. 社会科学習における「学びをデザインする子どもたち」

社会科学習の具体的なねらいは、子ども自らが課題意識をもって意欲的に学ぶ態度をはじめ、自分なりに思考し判断しながら問題を解決する力や自分の言葉で表現する力、学習の成果を自らの生活向上に生かす力などを身につけさせることである。社会的事象を単なる知識として理解するだけでなく、社会的事象を多角的・多面的にとらえることで総合的に判断することが重要である。

このようなねらいを達成し、社会科学習を一層意義深いものにしていくために、全体学習と同様にひとり学習を大切にしたいと考えている。全体学習は考えをすり合わせ練り合う場であり、ひとり学習を発展させる場でもある。全体学習はひとり学習のために、ひとり学習は全体学習のために相互に関連し合いながら位置づけられるのである。「ぼくは〇〇だと思う。」「わたしは、〇〇についてこんな疑問をもっている。」というように、学習対象に対して個人の思いをしっかりとつことから、ひとり学習がスタートする。

学習対象と出会い、子どもたちは様々な疑問をもちながら追究活動をすすめるが、このとき指導者は、誰がどんな事を調べ、どのように資料作りをしているのかを確実に把握しておくことが大切である。また、自分の疑問を解決できない子に対し、調べ方や考え方を助言することもある。ひとり学習をすすめることで、地図やグラフなどの具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や関連などについて考える力、調べたことを自分なりに表現する力を伸ばさせることにもつながると考えている。

社会科では、特に1時間の学習の中で、子どもに応じて、学びをデザインする子どもたちの姿を提案していきたい。全体学習で話し合いが始まると、いろいろな考えがでてくる。友だちの考えをしっかりと聴き、自らの思いを出し合う中で、「なるほど、そんな見方や考え方があったね。」と友だちの考えに共感することや、「ぼくと〇〇さんとは考えがちがうようだから、◇◇を用意して、もう一度ぼくの意見を言い直してみよう。」というように、学習対象に対する自分の考えを見つめなおすきっかけになり、新たなひとり学習の課題が設定されることが多い。このように子どもたちで“相互の刺激”をし合い、友だちの考えを知る中で自分の考えを一層深めることは、社会的事象や課題を公正かつ総合的に判断する力を育てる上でも大切である。また、友だちの知識や考えを比べたり・つなげたり・まとめたりすることで、考えや思いを再構成し、具体的な事実に対する理解が深まるのである。

## (1) 社会科における学びをデザインする子どもの姿

	3年	4年	5年	6年
課題 解決	教師と共に単元全体の見 通しをもって学ぶ	社会的事象から課題を見い だして追究する	社会的事象について広い視 野から課題を見いだして追 究する	社会的事象について広い視野 から課題を見いだして追究し 自分の生き方を考える
対話	友だちの考えにかかわり、 違いや同じところがわか り、新たな考えをうみだす	多様な考えに進んでかわ り、他者ととも新たな考 えをうみだす	多様な考えに進んでかわ り、三位一体の対話で自己 の変容に気づく	多様な考えに進んでかわ り、三位一体の対話で自己の変 容に気づく
学び 方	学び方を学び、社会事象に ついて必要なことを集め、 表現する	社会的事象を的確に観察、 調査し、目的に応じて読み 取ったり、まとめたりする	具体的な観察ばかりでなく 間接的な資料をもとに、社 会的事象を的確に観察、調 査し目的に応じて活用する	間接的な資料を理解し、社会 的事象を的確に観察、調査し 目的に応じて活用する

(表1 子どもたちが学びをデザインする姿)

## (2) 社会科における子どものみとりと支援

社会科における着目児とは単元を見通して設定する。単元で変容を期待する子、単元とかかわりの深い子、学びをデザインしていく子などが考えられる。単元を進めていく中で、着目児の変容を追いながら、子どもたちが「ひともの・こと」とどう関わっていくかをみとっていく。

課題に対して着目児のアプローチの仕方のみとることによって、子どもたちがより学びをデザインできるよう支援していく。そのために作文や座席表、カルテ、授業記録などで個の学びのみとり、支援していく必要がある。

## (3) 校内研3年生「くらしと商店」から

コンビニエンスストアの学習で単元の終末に校区のF店で「子ども店長」をすることとなった。

「子ども店長をするとき、F店にたくさんのお客さんをきてもらうにはどんな工夫をしたらいいんだろう？」という課題で、①中食（コンビニの主力のおにぎり・お弁当）やプライベート商品を工夫して売る②挨拶、笑顔など自分たちでがんばる③並べ方を工夫する④セールをするという4つの考えに分かれた。それぞれの意見を出し、練り合う中で、たかと君から「3つのよさをいかして使い分けをする」という意見が出た（一部授業記録を抜粋）

たかと：ぼくは、最初は中食もならべ方もいいと思っていたけど、そんなのをみんなまとめて、自分たちでチラシを書くほうがいいと思う。だって、子ども店長まであと一週間だし、それに、黒板に書いているみたいに、お客さんのことを考えて県庁前店に来るお客さんが買い物するのに喜んでもらうために工夫するというを自分たちでしなきゃいけない。

あやみ：たかと君の意見を聞いて、意見が変わって、お客さんを喜ばせるために、お客さんが買いやすいように工夫して、私たちもお客さんが便利のように、全部まとめてやるといい。

かりん：私も今日、4年生にアンケートをした時からちょっと迷っていて、みんなの意見と『当たり前のようなことをきちんとできるのが一番』というアンケートで、私も意見がかわった

こうじ：たかと君が言ったみたいに喜ぶことをするのがいいと思う。よく来るお客さんのために。

T よく来るお客さんって？

こうじ：県庁前店では、県庁の人が多く。その人たちがハッピーになるようにするのが一番いい

けい太：自分たちでするのは聞かなくていいけど、セールやならべ方とか、中食だったら、竹井さんと柳田さん（F社の人）にきかなあかん

T これも、これも、これも？・・・（板書さして）

けい太：そうそう

この後にも、数人の子どもが友だちの意見を聞き、考えを深めたり、変えたりした。このように、他者の意見に触れ自己の考えを更新し変容し、授業をデザインする子どもたちの姿が本時の中で見られた。また、単元を通して、子どもたちは、Fという身近な店（教材）がきっかけとなり、自分たちの地域のコンビニ、商店にかかわる「ひと・もの・こと」と直接触れ合うことができた。また、そこで出会った多くの方々が、学習を高めてくれる貴重な指導者となり、子どもたちにとって大きなエネルギーとなった。この出会いの一つ一つが商店で働く人々の願いや工夫、消費者の願いを知るきっかけになった。また、インタビュー、アンケートなど、様々な活動を通して、自分の思いや考えを確かなものとすることができた。そして、いろいろな立場の人と接し、学校だけでなく現実の社会とのつながりを持ったことで、対象・他者との対話をすることができた。そして、自分の考えを吟味することができ、地域社会に対する誇りと愛情を持つようとする変容が見られた。単元を通し個人のふりかえりカード、作文等の活用により、他者との見方・考え方の違いや自分自身の見方・考え方の変容にも気づくことができ、三位一体の対話がうまれた。

### 3. 研究の展望

ひとり学習と全体学習を交互に取り入れる社会科学学習を、より充実させるための重要なポイントとして次の3点が考えられる。今後の研究の視点としたい。

#### (1) 学習単元の開発と充実 学習課題とのかかわり

子どもたちが興味・関心をもつような活動や調査見学を取り入れた単元計画が必要である。また、他の友だちとの学びの交流を考慮した学習課題が大切である。学習課題とは、子どもたちの問題意識からスタートし、“相互の刺激”をし合う中で深化、発展していくものである。学習課題と出合ったとき、子どもたちは様々な疑問をもちながら追究をはじめ。問題解決への追究の見通しがもてる切実感のある学習課題でなければならぬ。

#### (2) ひとり学習における子どもの変容

学習課題と積極的にかかわっていくと、ひとり学習の問題意識が深まっていく。指導者は一人ひとりのみとりと支援が特に重要になってくる。ノートや作文、発言から個々の学びをみとり、子どもたちの変容を把握しながら学習を組み立てたいと考えている。個に応じた支援をすることで、子どもたちが調べてきた様々な考えをつなぎ、関連させながら全体学習をすすめることができる。

#### (3) 対話学習の構築

ひとり学習で調べてきたことや考えてきたことを全体学習で他者と対話させる中で、一人ひとりの学びの質を高めることができる。対話学習では、ともに学び、考え合う場面を特に大切にしたいと考えている。

### 4. 研究の評価

自分の思いや考え方の根拠となる資料等を、ひとり学習でみとるとともにその変容を把握する。様々な活動におけるノートや作文等で、個々の学びをみとり評価する。全体学習では、話し合い活動を通して、対話の深まり方を探り、学びの質の高まりを評価する。子ども自身が学習をふりかえる作文で、公正かつ総合的に判断する力が育っているかを評価する。

単元の導入と終末には作文を書いて、自ら変容を意識し、確かめるようにしている。また、学びの足跡を掲示したもので確認したり、個々でファイリングしたりすることで、新たな課題を見つけて学びを深めている。